

プレスリリース
報道関係者各位

2017FY035
2018/03/02
「新しい東北」官民連携推進協議会

パラスポーツが切り開く産業復興 ～パラリンピックを契機とした新たなイノベーションの創出を～

東京 2020 オリンピック・パラリンピックでは、その成功を通じて東日本大震災などの災害被災地の復興を推し進めることも期待されています。

こうしたなかパラスポーツに欠かせない各種の義肢・装具、競技用の用具、器具の開発等に被災地で事業を行う企業の技術、ノウハウなどをつぎ込み、実際に東京 2020 において使用されるよう、関係者間の情報共有や事業連携体制の構築を急ぐ必要があります。

そこでダイバーシティ研究所は、アスリートと義肢・装具、車椅子などパラスポーツで使用する用具、器具の開発・製造者、被災地で事業を行う企業の関係者が具体的な連携の進め方、それによる被災地復興への貢献などを議論し、パラスポーツの振興による産業復興をめざすためのイベントを企画しました。ご関心のある皆様方のご参加をお待ちしています。

概要は下記の URL をご参照ください。

<http://diversityjapan.jp/paraseminar180313/>

【本件に関する報道関係の問合せ先】
一般財団法人ダイバーシティ研究所
TEL : 06-6390-7800
Email : office@diversityjapan.jp

※当プレスリリースは「新しい東北」官民連携推進協議会の事務局が協議会会員に代わって発信するものであり、内容についてのお問合せは上記問合せ先へお願いします。

セミナー

パラスポーツが切り開く産業復興 ～パラリンピックを契機とした新たなイノベーションの創出を～

障がい者スポーツ（パラスポーツ）では、アスリート自身の力とともに、義肢・装具、車椅子をはじめとするスポーツ器具が大きな役割を果たします。その開発・製造は、アスリートの活躍と多くの人々の感動に貢献するとともに、自社の技術をブラッシュアップし、ビジネスの活動領域を広げることにつながります。被災地における企業とパラアスリートの連携を探るセミナーを開催します。



日時

2018年3月13日(火)
13:30～17:00 (開場 13:00)

場所

仙台市福祉プラザ
プラザホール
(仙台市青葉区五橋2丁目12番2号)
市営地下鉄南北線「五橋駅」徒歩3分

参加費 無料

定員 100人

MAP

申込み

WEB申込フォームよりお申し込みください。
(一財)ダイバーシティ研究所HP内
<http://diversityjapan.jp/paraseminar180313/>

右のQRコードよりアクセスできます→

申込締切：3月8日(木)

問合せ

一般財団法人ダイバーシティ研究所
TEL 06-6390-7800 ✉ seminar@diversityjapan.jp



主催：一般財団法人ダイバーシティ研究所 後援：復興庁（予定）、宮城県、仙台市、東北経済連合会、河北新報社
～このセミナーは、「新しい東北」官民連携推進協議会 連携事業として開催します～

プログラム

開会挨拶

(一財)ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎

来賓挨拶

仙台市

第一部 開談

テーマ: 「技術革新によるパラスポーツの支援」

パラ陸上・走り高跳びの選手として世界で活躍する鈴木氏と、義肢・装具の製作を通じて多くのパラアスリートを支える臼井氏をお招きし、義肢・装具の製作・研究の現場から見た技術革新への期待、パラアスリートへの支援のあり方を伺います。パラアスリートの日本社会活性化に果たすべき役割とは。

コーディネーター
(一財)ダイバーシティ研究所
参与 井上 洋



パラ陸上・走り高跳び選手

鈴木 徹

×

義肢装具士

スタートラインTOKYO代表 臼井 二美男



中学、高校時代とハンドボール部に所属し、駿台甲府高校在学中に山梨県代表選手として国体で3位に入賞。その後、筑波大学体育専門学群に推薦入学が決まるが、卒業直前に自らが運転していた車で交通事故を起こし、右足膝下11センチを残して切断。大学を1年間休学し、義足のリハビリのため東京身体障害者福祉センターに入所。義肢装具士の臼井氏との出会いやリハビリがきっかけとなり、走り高跳びを始める。

陸上競技を開始してから3ヶ月で、シドニーパラリンピックの大会参加基準である1m73cmを越え、日本人初の走り高跳び選手として出場を果たす。シドニー、アテネ、北京、ロンドンパラリンピックに出場し、4大会連続入賞。2005年のパラリンピックW杯、オープンヨーロッパ選手権では銀メダルを獲得。2006年のジャパンパラリンピックでは、2m00をクリアし義足選手としては世界で2人目となる2mジャンパーとなった。2007年のIWAS世界大会では金メダルを獲得し、2015年には9年ぶりに2m01の自己新記録、2016年には2m02のアジア新記録を樹立。リオパラリンピック大会にて、5大会連続出場を果たし、2017年の世界パラ選手権では、銅メダルを獲得した。これまでの体験談を基に講演活動も行っている。



(公財)鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター 研究室長 義肢装具士

1955年群馬県前橋市生まれ。日常用の義足製作のかたわらスポーツ用義足の研究と選手育成に取り組み、陸上、自転車、トライアスロンなどの選手を育成する。アテネ、北京、ロンドン、リオパラリンピック日本選手団メカニックとしても同行。27年間にわたり切断者スポーツクラブ「スタートラインTokyo」を主催して多くの義足ランナーを生み出している。通常義足でもマニティ義足やリアルコスメチック義足など、これまで誰も作らなかった義足を開発、発表。義足を必要としている人のために日々研究・開発・製作に尽力している。その類まれなる技術力と義足製作の姿勢でテレビ出演等多数。

第二部 パネルディスカッション

テーマ: 「パラアスリートと企業の連携による被災地の復興」

行政、企業、スポーツ支援、障がい者支援の分野から四氏をお迎えし、パラアスリートと企業の連携の可能性とその具体的な進め方、被災地の復興につなげる方策を探ります。

パネリスト



仙台市経済局産業政策部産業振興課 課長 白岩 靖史



日本政策投資銀行地域企画部 課長 坂本 広顕



株式会社TESS 代表取締役 鈴木 堅之



一般社団法人マルゴト陸前高田 理事 伊藤 雅人

コーディネーター



(一財)ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎

交流会

(16:30~17:00) 登壇者、参加者の方の名刺交換、交流会を行います。